

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 29 日現在

機関番号：34511

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26503019

研究課題名(和文) 東アジアの「水」を巡る「伝統の森」の文化の資料化

研究課題名(英文) The documentation for Forest with Traditions and Water in Eastern Asia

研究代表者

李 春子 (LEE, Choonja)

神戸女子大学・文学部・非常勤講師

研究者番号：40535788

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：東アジアには、山・川・海と地域社会が深く関わる「伝統の森」文化が遍く存在する。伝統芸能の原点の祭りをを行う空間であり、五感に広がる風景でもある。現在、その文化の認識希薄と人為的影響・生態的危機の共通課題により、未来に持続保全が困難である。本研究は、東アジア(日本・韓国・台湾)における「伝統の森」の文化の資料化である。「伝統の森」の空間位置・植生・生育状況・由来・地域誌を図鑑形式で100カ所の資料化を完成させた。東アジアの「伝統の森」の生態保全と文化継承に寄与し、自然と共生する豊かな文化を未来に繋ぐものである。

研究成果の概要(英文)：In Eastern Asia, there widely exists a "Forest with Traditions" that deeply relates with regional society and the seas, rivers, and mountains. It is the space in which is ceremony, which are the origin of the traditional performing arts, is carried out, and it is also the landscape that spreads to the five senses. The culture of 'forest with tradition' as a common theme in east Asia has been facing multiple difficulties including the lack of understanding, the ecological damage caused by humans and natural reasons. The purpose of this project is to documentation concerning in Eastern Asia such as Japan, Korea, and Taiwan's "Forest with Traditions". We completed the documentation of 100 regions around "Forest with Traditions" geographical position, ecological conditions, and local history. This project will contribute to cultural inheritance and ecological preservation and be a great help to pass down to the next generation the co-existence of future to live with nature.

研究分野：文化学

キーワード：水 伝統の森 文化の継承 生態保全 河畔林 海岸林 文化誌 資料化

1. 研究開始当初の背景

東アジアの「伝統の森」は、都市化や開発、ライフスタイルの変化、人口減少による後継者不足等と「伝統の森」文化の価値と重要性への意識が希薄となり、未来の世代に繋ぐ継承が困難な状況がある。

水と森の恵みと無病息災を祈り、地域の自然環境を理解して生を営む世界観が表れる神幸祭や神歌・雨乞い踊り等の伝統芸能の途絶えがあり、「伝統の森」と関わる祭礼の継承が困難な状況がある。

各地の「伝統の森」は、気象変化・災害、開発等により生態的危機に直面している。国や地域を超えて広がる害虫（ナラ枯、松くい虫等）や動物（鳥、猪、鹿等）の被害と津波や台風、地震など災害防止に重要な役割を成す森の持続保全ができず、生態環境が衰退し、消失危機である。

東アジアの「伝統の森」と地域社会の関わりや祭礼等、文化的価値とその生態環境を表す資料が少ない。そこで、「伝統の森」の写真・絵図・空間位置・植生・生育状況・由来・文化誌等を網羅させた資料化を進める必要がある。

2. 研究の目的

(1) 「伝統の森」の文化誌の資料化

現地調査に基づいて地誌等の文献、古絵図、地域誌、植生・生態環境の資料を作成する。

(2) 「伝統の森」の文化的価値を考察

祭礼や伝統芸能等、文化的側面の多義的な価値を掘り起す。また、「伝統の森」の文化的価値を再認識し、地域社会と社会全体においてその重要性を促すため持続保全を探る。

(3) 「伝統の森」の生態状況の現地調査

東アジア（日本・韓国・台湾）の「伝統の森」の生態状況について調査する。行政及び地域社会における持続保全を探ることにより、未来の世代に繋ぐ「伝統の森」の生態的

価値を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 「伝統の森」に関わる地誌、文献・古絵図等、収集した資料に基づき、1箇所につき1枚の調査表を作成する。

(2) 古絵図や文献、そして現地調査に基づき、「伝統の森」の文化的・多義的な価値を明らかにするため、祭礼に表れる「伝統の森」を巡る地域社会における人々の自然環境の理解や自然との関わり等を探る。

(3) 各地の樹木医や樹木専門家等と協力して、「伝統の森」の植生・生育状況を調査する。

4. 研究成果

(1) 東アジアの「伝統の森」文化の資料化「伝統の森」の写真・絵図・空間位置・植生・生育状況・由来・地域誌を図鑑形式の調査表を以下のように作った。

< 調査表の項目 >

写真（森の状況と祭礼等）・絵図	由来・地域誌
空間位置	植生・生育状況

当初は55カ所を計画していたが、より多い資料化を試み100カ所の図鑑を完成させた（日本本島50カ所、沖縄本島・八重山20カ所、韓国及び台湾30カ所）。

東アジアの「伝統の森」は、集落の開拓・島の創生・災害・生業・戦争等、地域社会と深く関わっている。

山川里海を繋ぎ、聖なる水源地 水源涵養林、里の鎮守の森、河畔林と海岸林に分類できた。また、その多くは、造られた防砂林や災害防止林であることが確認できた。

## (2) 「敬森・敬水」と「親森・親水」

「伝統の森」は、命を繋ぐ水や森の恩恵をもたらす、俗世の穢れを清める蘇生装置である。そして、祭礼の空間であると同時に、普段は五感に広がる風景であり、災害時は防災林、地域の様々な歴史と共に生きた文化として東アジアに共通する知見が得られた。

このような水や森の恵みに生かされている人間社会は、土木工事的な治山・治水だけではなく、祭礼や慣習を通して、災害を避け日々の安寧や無病息災を祈り、畏敬の念を表す「敬森・敬水」の知見が得られた。

更に、地域社会や行政等の連携による持続保全の活動や日々の散策等、水と森と人間社会の共生における「親森・親水」の知見が得られた。

## (3) 日本の「伝統の森」

「伝統の森」と地域社会の関わりを「敬森・敬水」の視点で考察した。水源地の「伝統の森」は、司水の神々を祭り、水の秩序が祈られる。

里の鎮守の森の周囲に造られた小川・水路は、結界の象徴であるとともに水田や集落にとって重要な実利的な水である。そして、河畔林・海岸林は、防災林の役割として人間社会と共生している。このような水と森の実利としての側面と同時に、清めの象徴は日本の特徴として考えられる。

「伝統の森」の祭礼は、地域社会による自然環境の理解が表れ、浜降り・神幸祭等の祭礼には、水と森との関わり合いの理解として「敬森・敬水」の自然観が伺える。

## (4) 韓国の「伝統の森」

韓国の「伝統の森」20カ所のうち、人工林として造られた海岸林は5カ所あり、河畔林は8カ所である。これらは、風水概念（禰補・水口）や防風林・防砂林、川の氾濫を防ぐ災害防止林として造られたものが多い。ま

た、植生は、松林が最も多く9カ所である。

「伝統の森」の空間には、風景観賞や精神を高める空間として亭子が造られたことが分かった。近年、亭子を中心に文化的活動の空間として利活用され、「伝統の森」と人間社会の共生における「親森・親水」の知見が得られた。

## (5) 台湾の「伝統の森」

台湾は、気候及び地理的影響と信仰形態等の関わりにより、日本や韓国のような人工の河畔林・海岸林が少ない。独木成林という言葉が示すように、単木が森のように広がり、集落の景観を成す所が見られた。

かつて、燃料や家畜の飼料として使われたマングローブ林は、自然保全区に指定されたことと、ライフスタイル変化により、マングローブ林の規模が広がっている。また、近年では、景観及び観光に利用されている。更に台北市淡水紅樹林教育館では、地域の子どもたち対象にマングローブ林及び多様な生物について環境教育を行っている。

## (6) 「伝統の森」の持続保全

滋賀県長浜市の平塚天神社の鎮守の森や虹の松原、天橋立の松林等では、地域社会、行政、そして民間団体の協力のもと生態環境を再生し、持続保全に繋げていることが分かった。

また、地域社会の実践保全に繋げるため、研究発表を2回行った（2016年3月5日、滋賀県立大学でワークショップ開催、2016年6月3日、八重山の講演会「循環する「水」を巡る「伝統の森」と持続保全」石垣市）。

更に、地域社会への還元を試み、意見交流会を2回行った（2015年6月25日「日・韓海岸林保全の意見交流会」佐賀県虹の松原、2016年4月9日、日・韓の「松林」保全意見交流会、天橋立公民館）。

以上の研究発表会と意見交流会を通して「伝統の森」文化の実践保全に寄与した。

#### (7)「伝統の森」保全の課題と展望

日本にある「伝統の森」の中で、松林は地域によって保全活動の差が見られた。痩せ地を好むマツの富栄養化防止や、広葉樹侵入を防ぐ為の松葉かき・雑草抜きの住民活動は、虹の松原が活発であることが分かった。しかし、様々な理由で行わない所も見られた。

韓国では、松林の持続保全の為、2015年10月から蔚山生命の森(蔚山市)を中心に松葉かき・雑草抜きの必要性を提言し、住民活動の実践に繋いだ。資料化のみならず、東アジアの「伝統の森」の持続保全に繋いだ大きな成果である。

しかし、多くの河畔林・海岸林は、住民活動が広まらず、それに加え松林の富栄養化が進んでおり、今後の課題と考えられる。

沖縄本島の御嶽の空間は、水の秩序・順候を祈願する雨乞い祈願や祭礼等が行われてきた。近年、人為的影響や台風、害虫等の御嶽林の課題も多い。今後、行政と地域社会、専門家の協力により、御嶽林を如何に保全していくか検討する必要がある。

今後の展望は、地域活性化や自然と人間社会の共生における「親森・親水」の「伝統の森」の保全を広く伝え、一連の成果『東アジアの水を巡る「伝統の森」文化誌図鑑』の刊行を試みたい。

#### <引用文献>

李春子、日本の水を巡る「伝統の森」の文化誌と持続保全」山・川・里・海を繋ぐ「敬森・敬水」と「親森・親水」を探る、社叢学研究、第15号、2017、pp. 40-56

野本寛一『共生のフォクローア』1994年 p. 64

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

李春子、日本の水を巡る「伝統の森」の文化誌と持続保全」山・川・里・海を繋ぐ「敬森・敬水」と「親森・親水」を探る、社叢学研究、第15号、査読有、2017、pp. 40-56

李春子、沖縄・八重山の「伝統の森」の文化誌的考察」循環する「水」を巡る海・山・森の「敬森・敬水」を探る、社叢学研究、第13号、査読有、2015、pp. 7-21

〔学会発表〕(計 4 件)

桑子敏雄、森と海の文化 くらし・いのり・自然、社叢学会、2016年6月19日、鹿島神宮(茨城県鹿嶋市)

李春子、東アジアの水を巡る「伝統の森」の文化の資料化～山・河・里・海を繋ぐ水と森の「敬森・敬水」を探る、社叢学会、2015年5月31日、宗像大社(福岡県宗像市)

李春子、東アジアの祭祀空間における自然と文化、伝統的な祭祀空間における緑研究会、2016年8月11日、大阪府立大学(大阪府堺市)

野間直彦、渡部俊太郎、中川潤、稗田真也、高田研一、滋賀県竹生島におけるカワウ個体群衰退が営巣地の植生パタンに及ぼす影響、植生学会第21回大会、2016年10月22日、大阪産業大学(大阪府大東市)

#### 6. 研究組織

##### (1)研究代表者

李 春子(LEE, Choonja)  
神戸女子大学・文学部・非常勤講師  
研究者番号：40535788

##### (2)研究分担者

桑子 敏雄(KUWAKO, Toshio)  
東京工業大学 社会理工学研究科・教授  
研究者番号：30134422

野間 直彦(NOMA, Naohiko)  
滋賀県立大学・環境科学部・准教授  
研究者番号：80305557

##### (4)研究協力者

嵯峨井 建(SAGAI, Tatsuru)

大谷 一弘 (OHTANI, Kazuhiro)

崔 松鉉 (CHOI, Song hyon)

尹 石 (YOON, Sook)

朴 錫坤 (PARK, Seok gon)

莊 世滋 (ZHUANG, Shi zi)

平良 徹也 (TAIRA, Testuya)